

モニタリング結果報告書 (平成28年度)

1. 施設概要

施設名	秦野精華園		
所在地	秦野市南矢名 3 - 2 - 1		
サイトURL	http://www.kyoudoukai.jp/		
根拠条例	神奈川県立の障害者支援施設に関する条例		
設置目的(設置時期)	障害者総合支援法第5条11項に規定する障害者支援施設		
指定管理者名	社会福祉法人かながわ共同会		
指定期間	H18. 4. 1～H29. 3. 31	施設所管課	障害福祉課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>利用者の満足度がA評価、収支状況がS評価となったため、3項目評価はSとした。なお、利用状況については、29年度の民間移譲に向けた調整の影響により大きく左右されることから、評価の対象外としている。</p> <p><各項目の詳細説明></p> <p>【管理運営等の状況】 地域サービス事業の一つである就労等基盤整備推進事業では延べ15名が企業実習を行い、6名が就職という実績をあげた。また、多様な利用者のニーズに対応するため、各種研修の実施等により、支援の質を高め、利用者支援の充実に努めた。</p> <p>【利用状況】 利用状況の対前年度比が101.2%となっているが、29年度の民間移譲に向けた入所利用者数の調整の影響が大きいことから、昨年度のモニタリング結果報告書では、利用状況の評価は対象外とした。したがって、今年度も同様に評価の対象外とする。</p> <p>【利用者の満足度】 施設を利用する知的障害者の障害特性から4段階評価による満足度の評価は困難であることから、「はい」「いいえ」の2択で回答できる「利用者アンケート」を実施した。回収率は58%であり、概ね満足しているとの回答結果であった。上位の回答割合が78.7%となったため、A評価となった。</p> <p>【収支状況】 当初の見込みより、施設利用者が増加したため、自立支援給付費の収入が増加したことにより、収支差額は当初予算比プラス707.74%となり、S評価となった。</p> <p>【苦情・要望等】 苦情が1件寄せられたが、速やかに謝罪及び再発防止策を講じ、対応を行った。</p> <p>【事故・不祥事等】 ひやりはっと報告書、事故報告書の集計と分析等を行い、事故の未然防止に努めている。</p> <p>【労働環境の確保に係る取組状況】 労働基準監督署より、「健康診断後、所見ありとなった職員への医師からの健康指導に係る記録が整備されていなかった。」、「労働災害認定となっている職員の労働災害の原因及び再発防止策を検討するように。」と指摘があった。 前者については、産業医より、職員の健康保持のために必要な事項について意見を確認し書面に残した。2/3に平塚労働基準監督署へ是正報告書を提出した。後者については、衛生委員会において、当該労働災害の状況を話し合い議事録に記載することを徹底した。2/13に平塚労働基準監督署へ是正報告書を提出した。</p>	
3項目評価	<p>S : 極めて良好 A : 良好 B : 一部改善が必要 C : 抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目（利用状況、利用者の満足度、収支状況）の評価結果をもとに行う評価をいう</p>
S	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	適宜	
随時モニタリングにおける指 導・改善勧告等の有無	有・ 無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
施設運営・経営の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・現施設の改修工事等に係る検討を重ねた。 ・支援体制等の事業のあり方について検討を重ね、平成28年度末にチャレンジセンター自立訓練（生活訓練）と就労継続支援A型を廃止、また、事業廃止に伴い、園全体の事業内容の見直しを行った。 ・経理規程に準拠した適正な経理処理の実施と、コンプライアンスを徹底した現金取扱い等における事故防止対策に取り組んだ。 	
利用者支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画を中心に利用者の希望や多機能型事業の内容に沿い、計画的に学習会を行った。 ・事故防止対策に向け、年4回ひやりはっとポスターの発行を実施し、意識づけとして取り組んだ。 ・多様化する障害特性に対応するべく、職員のスキルアップのため継続して職員研修に取り組んだ。 	(研修実施内容) <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害コミュニケーション研修 ・SST研修 ・てんかんセミナー ・強度行動障害（危機介入）研修
権利擁護・虐待防止への取り組み。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会を月1回開催し、虐待、権利擁護への意識を深めた。また、三者面談を実施、支援の振り返りを行い職員意識の向上に努めた。 ・利用者自治会活動への支援は、人権擁護の取り組みとして位置づけ、継続した。 ・各課会議にて、毎月の人権目標の振り返り、気づき等、職員の意識づけと啓発を含め、継続して取り組んだ。 	

地域との積極的な連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秦野市相談支援連絡会に年9回、伊勢原市障がい者くらしを考える協議会相談支援部会に年5回参加し意見交換、情報共有を行った。 ・ 近隣の事業所にてパン製品を出店した。(45回) ・ 近隣の保育園児による、製パン作業見学会及びラポールセイカにてお買い物体験を実施した。 ・ 東海大学医療技術短期大学(飛鷗祭)への参加、交流会、ゲームに参加(利用者18名) 	
自主事業の安定的経営と機能強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障害者移動介護従事者養成研修事業の実施に向け、他事業所の実績調査を行い次年度の実施に向けて準備を行った。 ・ 見学の希望についても積極的な受け入れを行った。 ・ グループホームにおいて、利用者の状態像の把握を課会議、世話人会議を中心に進めた。それに伴い支援体制の再構築を進めた。 	

[参考：自主事業]

事業計画の提案内容	実施状況等

5. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
—	

	前々年度	前年度	平成28年度
利用者数※	33,907	32,183	32,562
対前年度比		94.9%	101.2%
目標値	100	100	100
目標達成率			

目標値の設定根拠： 社会福祉入所施設であり目標値の設定が困難であるため、施設入所の定員数を記載

利用者数の算出方法(対象)： 入所者の延べ人数

[参考：最大利用可能人数／年]

	施設入所	短期入所	生活介護	自立訓練	就労支援	合計
定員	100	10	76	10	62	
年間利用可能日数	365	365	269	269	269	
最大人数※	36,500	3,650	20,444	2,690	16,678	79,962
稼働率						

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	利用者自治会の定期的開催	利用者向けアンケートを定期的に行い、意見の聞き取りを行った。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 自分のいる課は好きですか。

実施した調査の配布方法 直接配布 回収数／配布数 102 / 176 = 58.0%

配布(サンプル)対象 施設利用者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	74			20	94	・あまり自由がない。 ・友達関係が苦手。
回答率	78.7%			21.3%		
前年度の回答数	96			26	122	
前年度回答率	78.7%			21.3%		
回答率の対前年度比	100.0%			99.8%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：職員の対応状況]

質問内容 困った事・悩み事を相談できる人はいますか。

実施した調査の配布方法 直接配布 回収数／配布数 102 / 176 = 58.0%

配布(サンプル)対象 施設利用者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
職員の対応状況の 回答数	96			6	102	
回答率	94.1%			5.9%		
前年度の 回答数	108			6	114	
前年度回答率	94.7%			5.3%		
回答率の 対前年度比	99.3%			111.8%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

[参考：その他]

施設利用者の大半が軽度の知的障害を有しており、4段階評価による回答は困難であることから、「はい」「いいえ」の2択で回答できるアンケートを実施しており、結果を記載している。

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：プラスの施設が該当 収支差額の決算額／収支差額の当初予算額の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
S	

[指定管理業務]

(単位：千円)

		収入の状況				収入合計	支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の内訳			支出	収支差額
前々 年度	当初 予算	200,031	503,086	91,798		794,915	756,114	38,801	
	決算	200,031	504,984	74,257		779,272	729,485	49,787	128.31%
前 年度	当初 予算	201,760	489,573	82,704		774,037	745,662	28,375	
	決算	201,760	470,726	58,947		731,433	675,423	56,010	197.39%
28 年度	当初 予算	201,760	468,824	71,509	備考欄参照	742,093	736,256	5,837	
	決算	201,760	498,726	127,189	備考欄参照	827,675	786,364	41,311	707.74%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数			(単位:千円)
28年度 /	前年度 /	前々年度 /	

＜備考＞ その他収入の内訳			
○28年度 当初予算		決算	
・経常経費寄付金収入	900	・経常経費寄付金収入	1,270
・受取利息配当金収入	30	・その他の収入	10,542
・その他の収入	5,901	・積立資産取崩収入	5,000
・就労支援事業収入	64,678	・サービス区分間繰入金収入	48,238
		・就労支援事業収入	62,139

[参考：県が支出した修繕工事費] ※県が支出する計画修繕工事・各所管繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額(千円)	工事箇所・内容(金額(千円))
2017年3月	500	居住棟配膳室天井改修工事

(基本協定において県が負担することとしている修繕費等： _____ 千円以上)

[参考：資本的な収入及び支出等の状況]

	金額(千円)	内容(金額(千円))
収入	5,000	・積立資産取崩収入(5,000千円)
支出		
積立	18,000	・修繕積立金(15,000千円) ・備品等購入積立金(3,000千円)

8. 苦情・要望等

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	1 件	・園の外周斜面の草刈りを行った後、道路に草が落ちていたので、対応をお願いしたい。	・総務部長が訪問し、謝罪と今後の対応を伝え、了解を得た。
職員対応	件		
事業内容	件		
その他	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
10月16日	①サッカークラブの練習中、ジャンプの着地を失敗し、倒れ込む。救急搬送され、「左足首の脱臼骨折」と診断される。 ②なし ③救急搬送された病院が遠方ということもあり、翌日、再通院し、手術の必要ありということで、入院となる。今回の事故はサッカーのプレイ中の怪我であるため、再発防止策としては、準備体操やグラウンドの整備を入念に行い、環境面に配慮する。 ④なし ⑤なし ⑥なし

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	有	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康診断後、所見ありとなった職員への医師からの健康指導に係る記録が整備されていなかった。」と指摘があった。 ・産業医より、職員の健康保持のために必要な事項について意見を確認し書面に残した。2/3に平塚労働基準監督署へ是正報告書を提出した。
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	有	<ul style="list-style-type: none"> ・「労働災害認定となっている職員の労働災害の原因及び再発防止策を検討するように。」と指摘があった。 ・衛生委員会において、当該労働災害の状況を話し合い議事録に記載することを徹底した。2/13に平塚労働基準監督署へ是正報告書を提出した。

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。